

避難行動判定フロー

自らの命は自らが守るため、普段から次の避難行動判定フローで状況を確認して対策を立てておきましょう。

あなたがとるべき避難行動は？

洪水ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう

洪水ハザードマップは、浸水が想定される区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります

家がある場所に色が塗られていますか？

色が生かされていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください

災害の危険があるので、原則として自宅の外に避難が必要です

浸水の危険があっても次の場合は自宅に留まり安全を確保することも可能です

- ①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまう危険性の高い区域の外側である
- ②浸水する深さよりも高いところにいる
- ③浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食糧などのそなえがある
- ④がけ崩れ・土砂流の発生する危険性がない
- ⑤ため池などで決壊が発生する危険性がない

ご自身または一緒に避難する方は、避難に時間がかかりますか？

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

警戒レベル3が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しよう（日頃から相談しておきましょう）

警戒レベル3が出たら、市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

警戒レベル4が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しよう（日頃から相談しておきましょう）

警戒レベル4が出たら、市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

避難行動判断フローの使い方

①ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認しましょう。

市から配布されたハザードマップで自分の家が洪水や土砂災害等の危険があるのか確認しましょう。

※市ホームページでも確認できます。

洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ

②家がある場所に色が塗られていたら「原則として避難」

ただし、「避難」とは「難」を「避」けることです。

自宅に留まって安全確保が可能かチェックしましょう。

家がある場所に色が塗られていても、例外と記載された矢印の枠に記載された条件に当てはまる場合は、自宅に留まって安全確保することも可能です。

③家がある場所に色が塗られていて、例外に当てはまらない場合は命を守るため、安全な場所へ避難する必要があります。

避難行動判定フローを読んで、当てはまる行動を選択しましょう。避難をはじめるときのタイミングはご自身又は一緒に避難する家族の方の状況で異なります。

また、市が指定した避難所に必ず行く必要はなく、安全な親戚・知人宅も避難先として検討することができます。

④こちらが、あなたの避難のタイミングと避難先の目安です。

避難のタイミングは、市から出される避難情報の「警戒レベル3」または「警戒レベル4」が基本となります。

「警戒レベル3」や「警戒レベル4」がで